

# 産学官によるスポーツDXで熊谷を日本一アツいスマートシティへ ～AI技術で誰もがデータ分析にチャレンジできる街に～

＜目標＞ 計画期間：～令和 10年 9月 30日

1. 誰もがアクセスできる、スポーツデータ分析環境の提供／データ分析人材の育成
2. データに基づいた地域スポーツ強化／指導現場のDX
3. スポーツ施設DXによる施設価値・住民満足度の向上
4. 熊谷スポーツコミッションとの連携による地域内外へのPR・合宿誘致

★AIカメラ利用者数 50件以上 (R8.9末) ★配信ページ閲覧回数 500回以上 (R8.9末)



## ＜PRポイント＞

- ・誰もが自分たちのスポーツ映像データを簡単に記録・分析できる環境を提供  
…熊谷市スポーツ・文化村「くまびあ」に自動で試合や練習の映像を記録できるAIカメラを導入
- ・産学官五者での共同研究を開始  
…施策のモデルケースとして市内チームの戦術強化と、地域の学生を中心としたデータ分析人材の育成に関する調査を実施

## ＜現状・課題＞

- ・ラグビーワールドカップ2019™の開催地となるなど「スポーツ熱中都市宣言」を掲げ、スポーツ（ラグビー）によるまちづくりを実践している。スポーツ施設を軸に市民の積極的なスポーツ参加の推進施策が求められている。
- ・「デジタルと人の力で、社会を前に進めていく」まちづくりを方針とするスマートシティ施策を掲げ、重点的に取り組む分野の1つとしてスポーツ・健康分野を掲げているが、市民を巻き込む持続的な具体施策を必要としていた。

## ＜総合的な取組内容＞

熊谷市スポーツ・文化村「くまびあ」にスポーツ自動撮影AIカメラを導入



誰もが自分たちのスポーツ映像データを簡単に記録・分析できる環境を提供

産学官五者連携での研究をスタート



市内社会人サッカーチームの試合映像を地域の大学生アナリストがデータ分析しフィードバック→戦術強化に活用

市内のデータ分析人材を育成・スポーツで熊谷スマートシティを推進  
資源を活用した交流人口の増加



合宿誘致

スポーツタウン

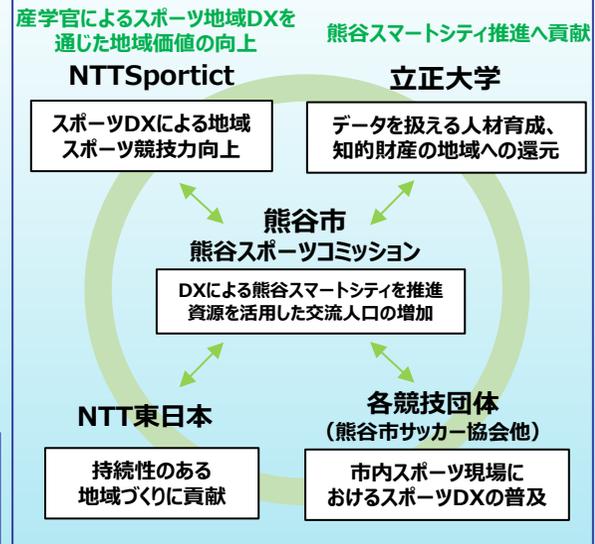
スポーツ教室

データ教育



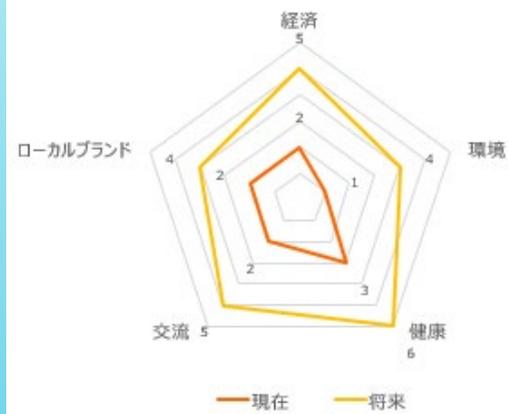
- ①他競技・チームの利用拡大→「スポーツ×デジタル」で新たなサービスの提供
- ②データ分析人材の教育育成→地域コミュニティ、キャリア形成へも発展
- ③PR・合宿誘致に接続  
→大規模大会、合宿誘致数の拡大。新規団体へのアプローチが可能。

## ＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞



## ＜セルフチェックシート＞

### スポまちセルフチェック



【フォローアップ欄】令和7年度以降における計画の進捗状況

問合せ先・電話番号

熊谷市総合政策部スポーツタウン推進課  
電話：048-524-1135（直通）